

令和5年度 瀬戸内タウンミーティング意見交換要旨（瀬戸内市役所）

令和5年10月1日（日曜日）

午後2時～

瀬戸内市役所 2階大会議室

参加者：男性 11人、女性5人 合計16人（事務局5人を除く）

オンライン参加者：4名

（職員参加者、事務局を除くと男性8人、女性1人 合計9人）

★意見交換要旨★

- ・こどもひろばは、毎回同じ内容ではなく、段ボールや木などを使った遊具を子どもたちが一緒になって考えて作ることもしてみてもどうか。段ボールを使って遊ぶことは、災害時の段ボールベッドの作り方を学ぶことにもつながると思う。

（市長）

こどもひろばの遊びの工夫について担当課に伝える。

- ・瀬戸内市の近辺に大きな公園がない。福元グリーンタウン内の公園は割と広く、地域の住民もよく利用しているので、都市公園の一部として今ある公園を活かす方法を考えてほしい。

（市長）

福元の公園の都市公園化は検討課題になると思う。都市公園になっていなければ、修繕費用などの財源がまったくない。都市公園になるメリットとして、都市公園の面積に応じて交付税が交付されることがあり、交付税を財源として修繕等が可能になる。どの地域のどの公園を都市公園化するかは今後検討していきたい。

- ・集会所を改築して、周辺住民が一時的に避難できる場所を作ることを検討してほしい。

（市長）

避難所を開設すれば一人以上の職員や保健師を交代制で配置する必要があることから、今以上に開設箇所を増やし人員を確保することは、現状の職員数では限界がある。したがって、まずは地域の皆さんで、市民の皆さんの安全をしっかりと支えていただけるような連携が必要だと考える。地域の自主防災組織と連携しながら、避難所

の開設に向けて必要な物資などをどのように備蓄しておくかということは、すでに検討課題としてある。市としては、小学校区として災害時にどのような動きが必要になるかをこれからさらに検討していただけるよう進めていきたいと思っている。広い小学校区は、コミュニティ単位で物事を考えていただけるような枠組みが必要だと思っている。

- ・橋や歩道が整備されていない。車が渋滞する場所も発生している。人口が増えてくると未整備のままだと危険なので整備を進めるとともに、計画を策定する時に歩道や車の流れを考慮してほしい。橋の老朽化も順次修繕していくよう計画を策定してほしい。

(市長)

橋や歩道を含め、道路はどの場所がどのように混雑するのかをきちんと考えておく必要がある。邑久町豆田に開田線を整備しているが、完成すれば車の流れが変わってくると思う。瀬戸内インターへ向けた道路は慢性的に渋滞が発生しているが、ここへも影響があるかもしれない。道路網をどのように作っていくのか考えるときに、どこにどういった影響があるか、土地を「道路」という視点で見のではなく、都市計画上の考え方に沿って、「面」として捉えるべきだと思っている。

- ・「統合報告書」を知っている市民はごく一部だと思う。今後、住民全体へどのようにPRするのか。

(市長)

統合報告書のPRについては、市民の皆さんに自由にお持ち帰りいただけるように部数を準備したかったが、印刷部数に限りがあり市民の皆さんに無料でお配りできていない。今後の活用方法の課題として、市民の皆さんに紙媒体で手に取っていただくにはどうすればよいか検討したい。現在のPR方法としては、議会の視察で来られた方にお渡ししたり、瀬戸内市へ寄附していただいた方にお送りしたり、私が企業訪問する際に市のことを知っていただくためにお渡ししたりしている。市民の皆さんが見ていただく方法は、市ホームページでの閲覧や市立図書館での閲覧が中心となっており、実際にお配りすることはできていない。市の広報紙に概要を掲載する予定があるので、概要をご覧いただき本編もご覧いただければと思う。

- ・統合報告書では、2045年には人口が28,870人になると推計されており、人口減少が進み、高齢化に伴う高齢者への行政サービスの財源はさらに増えていくと思う。移住・定住の促進において、奈義町の子育て支援政策を参考にしたらどうか。

また、人を動かす方法として行動経済学「ナッジ理論」や心理学をうまく利用した、「ナッジ政策」を導入してはどうか。これから財政も厳しくなってくる。住民の心理に基づいた行動の変容に着目して、できるだけ予算を使わないで効果を上げる政策があってもいいと思う。

(市長)

財源の問題は非常に深刻だと思っている。高齢者福祉や子育て施策の財源は、市税でまかなえている部分以外は国の財源に大きく頼ることになるが、何でも国に頼るわけにはいかないの、市としては企業誘致を含め自主財源をどれだけ確保できるかが重要である。瀬戸内市内に色々な企業を増やしていくことが一つの方法としてある。また、安定して得られる土地貸付料（錦海塩田跡地メガソーラー事業）の財産収入を有効に活用していくことは瀬戸内市の強みとして活かしていけると思う。

奈義町の子育て支援は参考になっている部分はあると思う。奈義町が導入している「しごとコンビニ」といわれる、簡単に仕事との接点を得られる拠点が瀬戸内市にはない。瀬戸内市では、今度設置する予定のビジネス支援センターで情報を提供していければと思っている。瀬戸内市の立地条件を考えれば、今の人口増の流れというのは評価できると思う。課題なのは、保育所・こども園が足りないことで、第一希望に入園できずに待っている子どもが多く、喫緊の課題となっている。どのように改善できるか担当部局と一緒に考えていきたい。

ナッジ理論の活用は、非常に重要だと思っている。補助金の交付や健康診断の受診案内など、ナッジ理論として認識しながら、単に実施するだけでなく、どうすれば市民の行動に影響を与え、政策の効果を高められるかという視点で全庁的に考えていく必要がある。

- ・瀬戸内市の文化振興は名のある文化財の振興だけなのか。ほかの自治体では、民俗資料館などがある。庶民が使用していた民具の扱いについてどう考えているのか。現状、市民図書館の一部に、背景と一体化して誰も見ないような展示になっている。

(市長)

瀬戸内市にも民俗資料館があり、民俗資料を展示していたが来場者がほとんどいなかった。それならば民俗資料を入れ替えながら、より市民の皆さんが目触れしやすい場所に展示することがいいのではないかと考えて、現在図書館で展示している。市としても、これで十分だと思っていない。きちんとした館（やかた）があっただけの環境があることが一番いいと思う。埋蔵文化財なども、今は倉庫にあり、残念ながら市民の皆さんに見ていただく機会はほとんどない。必要なのは民俗資料や埋蔵文化財などの収蔵している文化財を見ていただく環境を作ることだと思う。財源

の確保や事業が進んでいないため、まずは「歴史まちづくり財団」を設立した。ここから発展させていきながら、埋蔵文化財や民族文化財、伝統芸能の継承の課題も含め、幅広く文化財というものを捉えていく必要があると考えている。ご指摘の内容を十分に踏まえて今後さらなる文化の振興に努めていきたい。

- ・長船町行幸小学校の校舎がかなり老朽化している。行って見たところ、屋内の空調設備はとても立派なものに整備されていた。庁舎は古いのに、なぜ中身は新しいものに整備されているのか疑問に思う。校舎自体は耐用年数が30年もないようなものなのに、屋内の空調設備を立派なものに整備していることが、矛盾していると感じる。

(市長)

国が進めている学校施設の長寿命化というのはルールがあり、コンクリートの強度や耐震基準、そういった条件を満たしていれば基本的には建て直しではなく長寿命化をするような流れになっている。行幸小学校もコンクリートの強度調査を実施したが、今の状況だと、これから先も使用に耐えうるという調査結果になった。この結果に基づき、大規模改修を実施した。校舎は外壁の修繕は行っている。屋内の空調設備は耐用年数10～15年なので、校舎よりは早く劣化すると思う。まずは国の補助金をうまく活用しながら長寿命化を行い、然るべき建て替えの時期に備えて準備しておくことが当面の対策とならざるを得ないことをご理解いただきたい。

- ・以前、家族が顔にけがをしたので市民病院へ行ったが、担当医がいないので対応してもらえなかった。顔の消毒だけでも看護師に処置してもらえたらよかったと思う。

(市長)

看護師は診て差しあげたかったと思うが、担当医が不在で、看護師だけで責任を持って処置することが難しかったのだと思う。幅広く診察に対応し市民の皆さんに寄り添える病院になるよう私からも伝えておきたい。

- ・「はつらつ教室」では、椅子に座ったままできる体操や筋力トレーニングを教えてもらったり健康に関する文書や情報を教えてもらったり、楽しく参加できるので大変ありがたい。

(市長)

はつらつ教室へ参加いただきありがたい。高齢者の皆さんが元気に長生きしていただけるように、こういった機会をこれからも提供していきたい。

- ・将来的に瀬戸内市の水道料金が下がるのか上がるのか知りたい。地下に埋め込んでい
るパイプの老朽化が進んでいると思うが将来的に利用料金がどうなるのか知りたい。

(市長)

水道料金は、長年値上げをせず値下げを実施してきたが、人口が減っているのと節水型の様々な家庭用品の普及により料金収入は減少傾向にある。このままいくと、どこかのタイミングで、値上げは避けられないという状況である。なるべく値上げはしたくないが、値上げをしない状態が続くと、水道管への投資が疎かになり結果的に断水を招き、市民の皆さんにご迷惑をかけることにつながりかねない。なるべく経費を削減することは言うまでもないが、耐えられない状態になったときは、市民の皆さんに水道料金の値上げをお願いすることになるかもしれない。

- ・市民病院に眼科医が一人しかいない。今後、大学などから非常勤の医師が来ることかあるのかどうか。

(市長)

市民病院の眼科医は、岡山大学の医局から派遣されて来ていただいている医師だが、非常に頑張ってやってくれている。眼科に限らず、医師が異動するということになれば、代わりの先生をお願いすることになる。眼科以外にも言えることだが、本体の岡山大学に医師が大勢いれば来ていただけるがなかなか厳しく、市民病院の医師が不足している状況。高齢化が進めば、眼科以外にも様々な医療のニーズが高くなる。切れ目のないようをお願いしていきたい。

- ・市営バスの美和線については4便運行しているが、将来的に増便するのか。また、西須恵の小字もバスを運行してもらいたい。

(企画振興課)

市営バスについては、いずれの路線からも増便や土日にも運行してほしいといったご要望をいただいている。1路線、1便増えるごとに数百万円単位の経費がかかる。市民の皆さんのニーズを聞きながら検討は続けたい。

(市長)

車や免許を持っていない方、免許を返納して今は乗れなくなった方もいる。そういった方々に、最低限これで何とかつないでほしいというところに停まっているのが心苦しい。引き続き改善できるように頑張っていきたい。

- ・市役所のDX化について、オンラインでの相談対応やスマホからの申請など、現状と

今後の導入予定があれば知りたい。マイナンバーカードやオンラインでのやりとりがあまり進んでいないと感じる。

(市長)

瀬戸内市では、今年「書かない窓口」を導入する予定。市役所へ来て手書きで文字を記入するところを省略し、その次にLINE等を使用したオンラインでの申請を導入していこうと検討している。マイナンバーカードの普及率も見ながら、時間がかかるかと思うが進めていくので、環境が整うまでお待ちいただきたい。

・瀬戸内市にはたくさんのだんじりがある。玉津地区のだんじりと津山のだんじりは同じ製作者であることから、文化交流として、一緒にタイアップして何かできないか。市の観光にもつながり、瀬戸内市にはたくさんだんじりがあることを広く認識してもらえるので、観光PRに市内のだんじりを活用してほしい。このことが文化の伝承にもなり、外国人観光客向けの観光資源にもなる。まずは、インターネットを利用して、動画でのPRから始めてみてはどうか。

(市長)

だんじりについては、観光協会とも意見を交わした。保存している地域の皆さんは、大変な中で保存活動をやっているなので、よく話し合いをして、少しでも観光の振興やPRにつながる部分がお互いに見出せるのであれば、話をしながら盛り上げていけたらいいと思う。インターネット上でのPRについては観光協会にも相談してみたいと思う。